



～対話型授業で思考力を培う～

☆2年3組(普通科理系)「公共」の実践から

テーマ「男子校・女子高の共学化」 公民科 相道孝志

2-3の「公共」の授業で、「男子校・女子校の共学化を考える」というテーマで、討論形式の授業を実施しました。埼玉県では、県の苦情処理委員に県立の男子校が女子の入学を拒んでいることは日本が批准した女子差別撤廃条約に違反しており、是正すべきとの申し出があったことから、現在、県立学校共学化をめぐる議論が高まっています。

授業での班別討論では共学化賛成の立場と共学化反対の立場の両方から、その根拠を考えました。今回の討論の論点は、「男女平等」と「多様性」の対立であると生徒に説明しました。賛成側の根拠としては別学は男女平等に反する、別学は異性との関わりがなくなる、共学で視野が広がるなどの意見が出ました。反対側の根拠としては、異性との関わりが苦手な別学を希望する生徒がいる、共学だけだと学校を選ぶ選択肢が減る、両性の別学があるので平等などの意見が出ました。「男女平等」と「多様性」という2つの観点から、この問題を考えることで各自がより深く考えることができたのではないかと思います。



自分の考えを出し合う生徒たち。「よい意見だ」と認めあう様子も見られました。

☆2年2組「論理国語」の実践から

～東大教養学部推薦入試にチャレンジ～

作家である水村美苗氏『日本語が亡びるとき』の一部分を読み、その先の文章を推論し文章にまとめる東大の推薦入試問題に取り組みました。幅広い知識が必要となる問題です。授業では個人で読み取ってきたことをグループで話しあい、自分の推論の根拠を本文で確認しながら、その読み取りが正確かどうか確認しあいました。

「問い」は2つです。

- ①筆者はそもそも日本語が亡びることに何の危機を感じているのか。
- ②このあとどのような学校教育論を展開していると考えられるか。理由を含めて答える。

歴史で学習した「日本語は学問ができる言葉」ということの背景との結びつけや「普遍語・現地語・国語」などというキーワードの定義づけをしっかりと確認していくことが重要であることを生徒と共有しました。

☆教師の対話型の学び☆

～2年2組の国語の授業をふまえて～

授業を参観した理科の島田直子先生の詳細な生徒の発言の記録をもとに、授業をどのように見取れば良いのか、その様子から生徒の皆さんの課題がどこにあるのかについてグループで話し合いました。

このように、教科を超えて、授業のあり方を話し合っています。

対話型の授業では、話題を進めることに力点がおかれがちですが、「今のところ分からないからもう一度説明して・・・」「どういうこと？」と確認し合う発言が話し合いの修正や深まりを刺激することなどが共有されました。また、福井大学の遠藤貴広先生からは出題者の意図やどのような力を問われているかを共有することは大切との話を頂きました。

○次回は8月23日を予定しています。福井大学木村優先生をお招きします。